

## 連合福島「男女平等推進フォーラム2023」開催！

★連合がめざすジェンダー平等社会の実現に向けた取り組み★

連合福島男女平等推進フォーラム2023は、12月10日（土）15時～郡山市熱海町の郡山ユラックス熱海において、構成組織・地区連合から役員並びに若年層や女性組合員約130名が参加し開催された。



伊藤昭子代表幹事のあいさつ

今年も、コロナ禍を受け、広い会場で収容人員の半分の規模でソーシャルディスタンスを確保、事前の検温・消毒の協力を得て感染防止の徹底をはかりながらの対応となった。

冒頭、主催者あいさつとして連合福島青年女性委員会・伊藤昭子代表幹事は、『現在、女性雇用者の半数以上が非正規雇用で働いており、正社員で見ても、女性の賃金は男性の7割にとどまっていると言われている。また、結婚や出産を理由に5割もの女性が第1子出産を機に離職しており、現役世代の低賃金や不安定雇用は、高齢女性の貧困にもつながっている。

私たちは、様々な機会を通じて、男女間賃金格差の是正を訴えてきたが、7月に施行された女性活躍推進省令改正も機に、

今こそその実現に向けて、社会全体で取り組むべきであると考えます。そのけん引役となるのは、私たち労働組合である。性別、年齢、国籍、障がいの有無、就労形態などにかかわらず、多様な人たちの声に耳を傾け、すべての人が平等で差別されることのない社会の実現に向けて、青年女性委員会のこれまでの活動を見直し、取り巻く環境に合わせ、さらに運動を発展させていかなければならない。その為にも、連合「ジェンダー平等推進計画」フェーズ1を着実に取り組み、意思決定の場への女性の参画を進めていく必要がある。青年女性委員会としてもしっかりと意見をしながら、堅実に取り組んでいく決意である』と挨拶した。

続いて、連合福島・諸橋 誠敏事務局長は、『SDGsの目標5、ジェンダー平等の実現は、性別や年齢を問わず社会のあらゆる分野に参画する機会が確保され、お互いに人権を尊重しつつも責任も分かち合い、共に仕事や子育て、介護などを両立しながら、その個性と能力を十分に発揮し、経済的や社会的に均等な利益を享受できる社会づくりである。その実現に向けて私たちがやるべきことは、働く者の代表としての世論喚起は勿論のこと、生活に直結する「労働」「職場」をいうシーンで、性別によって不利益が生じることがあってはならない。何より大切なことは、その人の能力や価値観、実績、人となりを見て、「人」を評価することが重要であり、多様な生活環境や働き方を問わず、全ての働く仲間が、個性と能力を十分に発揮できる職場環境づくりに向け、労使一体となって汗をかいていくことである』と挨拶した。

その後、連合 総合政策推進局 総合局長の井上久美枝氏より、「連合がめざすジェンダー平等社会の実現に向けた取り組み」と題し御講演頂いた。参加者からは、事例も交え分かり易い講演でジェンダー平等に対する関心・理解がより深まったとの声が多くあった。

参加者の皆様の理解・協力を感謝し、終了報告とする。



講師の井上久美枝総合局長